

# 植物相

草津市の植物相とは「草津市内に生育する植物の全種類」のことです。今回の調査ではすべての植物のうち維管束植物を対象としました。現地調査の内容は野生（自生）植物、帰化植物、逸出植物、栽培または植栽植物に区分して記録しました。また、湖沼、ため池、河川等に生育する水生植物については、湿生植物、浮遊植物、浮葉植物、抽水植物、沈水植物に区分して調査し、記録しました。

調査により記録された植物は、種、亜種、変種、品種を含めて1287種と大変多くの種類が初めて記録されましたが、そのうち帰化植物が268種も確認されました。



アオバナ（鈴木義忠）

1981年1月に制定された草津市の花で、オオボウシバナ、オオウツシバナ、コンヤタロウとも呼ばれているツククサ科の植物。

## 科ごとの種数と属数の関係

草津市で記録された1287種のうち、1%以上の種類が含まれている科を調べ、さらにそれらの科に所属する属の数についても明らかにして表に示されています。その結果、1287種のうち、1%以上の種が出現した科は21科となりました。また、最多出現種の科はイネ科で132種（10.26%）、次いでキク科101種（7.77%）、カヤツリグサ科76種（5.85%）、バラ科53種（4.08%）マメ科49種（3.77%）の順になっています。次に、属数の割合を眺めてみると、イネ科63属（10.30%）、キク科56属（9.17%）、マメ科27属（4.42%）、バラ科23属（3.78%）、シソ科17属（2.78%）の順になっています。

草津市の植物相の特徴は草本類が顕著であり、イネ科、キク科、カヤツリグサ科の3科をあわせると309種、約24

%にあたり、特にイネ科とキク科については多くの帰化植物が含まれています。例えば、イネ科の132種のうち帰化植物は41種で、科のなかで31%余を占めており、またキク科は101種のうち44種が帰化植物で科のなかでは44%を占めています。

また、注目すべきはブナ科のコナラ属が12種も確認されたことです。そのうち常緑樹はアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシ、ツクバネガシ、ウラジロガシ、コジイ（ツブラジイ）、スダジイの8種です。このように、多くの常緑樹が確認されたのは、照葉樹の森の社寺林が大切に守られてきたからです。

	科名	科ごとの種数	全種数に対する割合 (%)	科ごとの属数	全属数に対する割合 (%)
1	イネ科	132	10.26	63	10.30
2	キク科	101	7.77	56	9.17
3	カヤツリグサ科	76	5.85	11	1.08
4	バラ科	53	4.08	23	3.78
5	マメ科	49	3.77	27	4.42
6	タデ科	30	2.31	6	0.98
7	シソ科	30	2.31	17	2.78
8	オシダ科	25	1.92	6	0.98
9	ツツジ科	24	1.85	9	1.47
10	アブラナ科	19	1.46	9	1.47
11	ヒユ科	19	1.46	8	1.31
12	スイカズラ科	19	1.46	5	0.82
13	ナス科	18	1.38	6	0.98
14	アカネ科	18	1.38	9	1.46
15	ブナ科	17	1.31	9	1.47
16	ナデシコ科	16	1.23	8	1.31
17	ウコギ科	16	1.23	8	1.31
18	オオバコ科	15	1.15	7	1.15
19	キジカクシ科	14	1.08	10	1.64
20	ヒルガオ科	14	1.08	4	0.65
21	ヒノキ科	13	1.01	8	1.31

## 植物の分布を地理学的に眺めてみると

### 世界種 世界の5大陸に広く分布する植物

ノゲシ、ヒメムカシヨモギ、ウツボグサ、ナズナ、ブタクサ、メヒシバ、ホザキノフサモ、マツモ、エビモ、イトモなど。

### 広布種 北半球の暖温帯から冷温帯にまで分布する植物

ノタヌキモ、タネツケバナ、ノミノフスマ、クサイ、フサモ、コヌカグサ、ヤマアワ、キンエノコロ、スカシタゴボウ、スズメノテッポウなど。

### ヨーロッパ大陸から日本まで分布する植物

オグルマ、アキノキリンソウ、タウコギ、コウゾリナ、ヨモギなど。

### 日本固有種・日本特産種 日本にのみ分布する日本固有の植物

ウツギ、ウバユリ、ウリカエデ、ヤマザクラ、クサアジサイ、クロミノニシゴリ、クロモジ、コアジサイ、シシガシラ、タニウツギ、ヨメナ、ノコンギク、ヒメコヌカグサ、ミズタカモジグサ、アイアスカイノデ、メダケ、ホツツジなど。

### 暖温帯性の植物 タブノキ、シイなどの暖温帯性常緑広葉樹林域の植物

アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ、ヤツデ、ヒイラギ、ウラジロガシ、シキミ、シロダモ、ネジキ、アセビ、フユイチゴ、テイカカズラ、イヌビワ、クスノキ、コジイ、サカキ、モッコク、タブノキ、モチノキ、ピロードイチゴ、サギソウなど。

### 太平洋側の植物 暖温帯性の植物の中で冬季に雪の少ない太平洋側に偏って分布する植物

アリドウシ、カナメモチ、キシダマムシグサ、コバノミツバツツジ、タマミズキ、モチツツジ、タラヨウ、ヤマアジサイ、ナナミノキ、クチナシ、カモノハシなど。

### 日本海側の植物 分布の中心が日本海側である植物

オオイワカガミ、コシアブラ、イワナシ、タニウツギなど。

### カシ林帯から中間温帯の植物

タムラソウ、オニグルミ、ケヤキ、シキミ、ヤマツツジ、ワレモコウ、ケヤマウコギ、オオフジシダ、コウヤボウキ、クリ、モミ、アカガシ、シロモジ、ツクバネガシ、ウラジロガシ、マメスゲなど。

### 東海丘陵要素の植物 東海地方で低湿地が普遍的に見られる台地、丘陵地帯を周伊勢湾地域といい、この地域に生育する植物

トウカイコモウセンゴケが該当する。

### 冷温帯性の植物 ブナ、ミズナラなどの冷温帯性落葉広葉樹林域の植物

ツタウルシ、ノリウツギが該当する。

### 氷河期の遺存植物 約2万年前の最終氷河期のころ北方に分布の中心をおく植物が南下し、今も現存する植物

モウセンゴケ、ミカヅキグサ、ウメバチソウ、ヌマガヤなど。

### 温暖期の遺存植物 約6000年前の縄文時代前期の温暖なころ亜熱帯性の植物が北上して、今も現存する植物

ミズスギ、ケシンジュガヤ、ハタガヤ、ノグサ、イヌノハナヒゲなど。



ウメバチソウ (鈴木義忠)



サギソウ (鈴木義忠)



トウカイコモウセンゴケ (鈴木義忠)



オグルマ (鈴木義忠)



ミズスギ (鈴木義忠)

## 帰化植物

帰化植物とは、人によって意識的あるいは無意識的に、1つの植物が本来の生育地である日本以外の国から、自生していない日本に持ち込まれて野生化して繁殖している植物のことです。草津市の帰化植物は268種で、草津市の全植物の種数1287種の20.8%を占め、帰化率は極めて高くなっています。帰化率が高いほど、その地域の自然度は低いと判断されます。

さらに、帰化植物は生態系に影響を及ぼし、その地域の

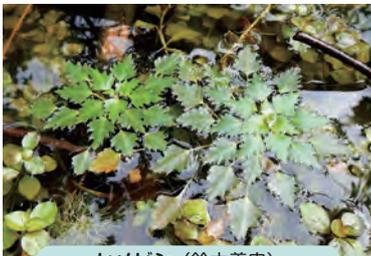
生物多様性も低下させることとなります。例えば、生長速度が速くて繁殖力が旺盛な帰化植物は、在来の植物の生育を妨げ、絶滅に追い込んだり、交雑によって遺伝子の攪乱を引き起こしたりします。また、植物が変化すれば植物に集まる昆虫や野鳥にも影響します。

帰化植物の調査結果から、草津市は大変自然度が低くなっていて、特に草地、空き地、休耕地、道路、堤防、市街地などは、帰化植物に包まれたような植物相となっています。

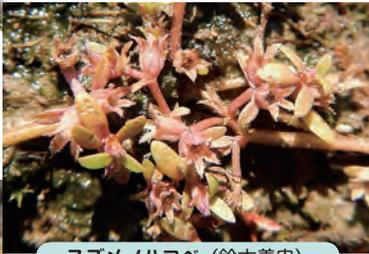
## 絶滅危惧種・絶滅危機増大種・希少種など

植物相調査の結果、滋賀県レッドデータブック2010年版に記載されている絶滅の危機に瀕している植物のうち草津市域でも生育が明らかになった種は52種です。その多くは湿生植物、浮遊植物、浮葉植物、抽水植物などですが、生育している場所や個体数は大変少なく、絶滅寸前の種がほとんどです。

絶滅が危惧される52種のうち、最も絶滅の危機の高いカテゴリーの絶滅危惧種はヒメビシとミズタカモジグサの2種、次いで高い絶滅危機増大種がノタヌキモ、マルミスブタ、セキショウモ、コシンジュガヤの4種、そして希少種のカテゴリーに該当する種は、これまで県内では旧朽木村にのみ確認されていたスズメノハコベや西浅井町にのみ確認されていたオオトリゲモ、それに草津市にのみ分布するトリゲモなど19種、次いで要注目種が4種、分布上重要種が6種、その他重要種が17種となっています。



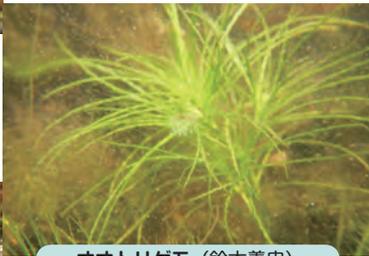
ヒメビシ (鈴木義忠)



スズメノハコベ (鈴木義忠)



ノタヌキモ (鈴木義忠)



オオトリゲモ (鈴木義忠)



ノハナショウブ (鈴木義忠)



シラン (鈴木義忠)

	種名	カテゴリー	
1	ヒメビシ	絶滅危惧種	
2	ミズタカモジグサ		
3	ノタヌキモ	絶滅危機増大種	
4	マルミスブタ		
5	セキショウモ		
6	コシンジュガヤ		
7	ジュンサイ		
8	スズメノハコベ		
9	コウホネ		希少種
10	ミズマツバ		
11	タチモ		
12	カラタチバナ		
13	スズサイコ		
14	イヌタヌキモ		
15	スイラン		
16	オオトリゲモ		
17	ノカンゾウ		
18	ノグサ		
19	ホシクサ		
20	セイタカハリイ		
21	ウメバチソウ		
22	ノハナショウブ		
23	サギソウ		
24	キンラン		
25	ミクリ	要注目種	
26	フサモ		
27	トリゲモ		
28	オオシロガヤツリ		
29	シラン	分布上重要種	
30	トウカイコモウセンゴケ		
31	クロミノニシゴリ		
32	オオマルバノホロシ		
33	ネジレモ		
34	ヒロハノエビモ		
35	ヒナザサ	その他重要種	
36	ヒメミソハギ		
37	コバノカモメヅル		
38	シソクサ		
39	オギノツメ		
40	キキョウ		
41	オグルマ		
42	コウガイモ		
43	トチカガミ		
44	イトモ		
45	カキツバタ		
46	カモノハシ		
47	ミカツキグサ		
48	ミズオオバコ		
49	コバノトンボソウ		
50	ヒメコヌカグサ		
51	コムラサキ		
52	マメスゲ		